

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度(平成31年度)	科目名	音楽ビジネス・マネジメント 2
科目基礎情報					
開設学科	コンサート・イベント科	コース名		開設期	後期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	2単位	授業形態	講義		
教科書/教材	必要に応じて資料を配布する。毎回前回講義のまとめを配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。				
担当教員情報					
担当教員	本多 功一		実務経験の有無・職種	有・舞台監督、コンサート制作	
学習目的					
卒業後のフィールドの特徴として、専門職が多岐に渡り関連業種と連携して実施している。それらの業務の進め方は決まった一定のパターンがない。そしてゼロからものを生み出していくクリエイティブなスキルや柔軟な思考が求められる。この3点を理解していくことが到達すべき目的である。そのためには業種や職種を理解するところから始まり、エンタテインメント産業のアウトラインを知ることが肝要である。知識を応用していくことで、自分が就く職業がどの業種と関連していくのか、まずは知識として理解する。社会全体の変化のスピードと合わせて音楽ビジネス産業やそれを含めたエンタテインメント産業も求められる資質は変化する。その変化とともに普遍的なものもある。毎回の講義を通じて3つのテーマを身につけ、社会に出たときに適切な判断ができるようになるために、学生は知的好奇心をもって参加し、よく考え、あらゆる環境で対応できるようになることが目的である。					
到達目標					
目的を実現するために、点で得た知識をつなぎ合わせて理解していくこと、各回の冒頭にある要旨の説明に対してなんとなく理解している内容と対比して解決していくこと、今まで得た知識に毎回の知識を重ねていくことで3Dのように立体的に理解をしていくこと、などを目標とする。毎回細かい指示を出す、その指摘を次回までに修正し、また対峙した見解があれば自分の考えとして述べることも目標としていく。					
教育方法等					
授業概要	エンタテインメント産業での業種を理解していくことは、卒業後の仕事内容をイメージしながら取り組むことが大事である。科目の目的を毎回色々な角度からアプローチしていく。音楽産業を含めた社会全体としての必須になる対応なども良い癖として体得していく。個性やオリジナリティ、アイデンティティなど個での主張や特徴はアーティストだけのものではない。アーティストとの共同制作者であるスタッフも同様の意識が持てるようになることも目標としていく。				
注意点	授業開始時に着席し、空欄のノートとシャープペンの芯が出て、すぐ書ける状態でスタンバイしておく。音楽をはじめとしてエンタテインメントは社会から生まれるものであることから、世の中の動きなどを知るための努力、授業だけではカバーできないエリアなどは、各自義務感ではなく好奇心として捉える癖をつける。他人の意見を否定せず、いったん自分に取り込んで決定する癖を付けていく。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	85%	授業目的を反映した試験の点数により評価をする。単元時に実施する課題の内容、取り組み方、丁寧な表記、正確な文字を評価する。		
	小テスト	0%			
	レポート	10%	単元のまとめとして得たことの理解度を評価する。試験の補完として実施する。		
	成果発表 (口頭・実技)	0%			
	平常点	5%	著しい不良な行為のみ減点する。		
授業計画(1回～15回)					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	メディアの影響力	メディアの影響力の大きさについて考察する			
2回	映像について	MV、ライブDVDなど映像との関わりから業種を理解する			
3回	救急対応	イベントにおける救急対応について理解する			
4回	契約について	音楽ビジネスの契約について理解する			
5回	オリジナルについて	クリエイティブという業種の生命線であるオリジナルの概念を理解する			
6回	広告代理店とは	イベントの種類と目的を知り、イベント産業の職域の広さを理解する			
7回	音楽とアイデンティティ	アーティストの作品からアイデンティティを考察する			
8回	舞台エンタテインメント1	歌もの以外の舞台作品を解説し、理解する(演劇の世界)			
9回	舞台エンタテインメント2	舞台作品の解説(オペラ、オペレッタ、バレエ、ミュージカル、歌舞伎、能)			
10回	言葉の規制について	メディアの規制する言葉について考察し、現実的な対応を確認していく			
11回	SPIについて	SPIのからくりについて解説し、実践する。就職活動の一助とする			
12回	プロデューサーについて	音楽プロデューサー、楽器職人の仕事への思い入れを紹介し、仕事という概念を理解する			
13回	就職活動について	担任、キャリアサポ、Jナビなどのサポート体制の活用推進と、各種業界のコメントを考察する			
14回	ケーススタディ	色々なトラブルが発生した場合の、対処とその根拠について考察する			
15回	総まとめ	一年間のまとめとして、全29回の確認をしていく。			